

親子で楽しむ 坂川親水広場を創り育てる会

ニュースレターVol.3

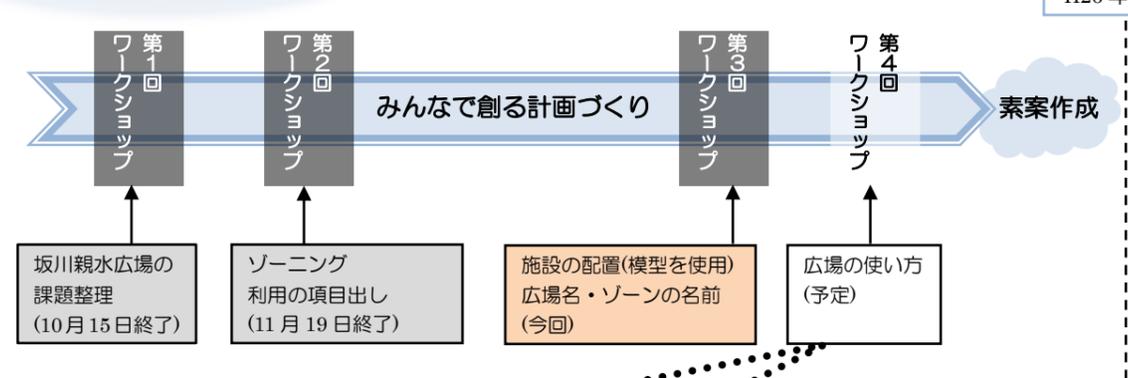
前回（第二回目）は班ごとに広場で「やりたいこと」と広場の何処でそれがしたいのかという「場所」を話し合い発表していただきました。第三回目となる今回は、前回と同じく班に分かれ、前回各班から出たテーマやまとめのゾーニング案を参考にしながらどんな広場にしたいのか話し合い、土台の敷地模型に下地と施設のアイテムを配置し、広場の模型づくりを行いました。そして更にできた広場と各ゾーンに名前を付けて、CCD カメラとプロジェクターを使用し映像を映しながら発表しました。

「第3回ワークショップ」を開催しました！

松戸市主催による地域住民・学識者・大学生の参加による第3回ワークショップが1月14日に開催されました。

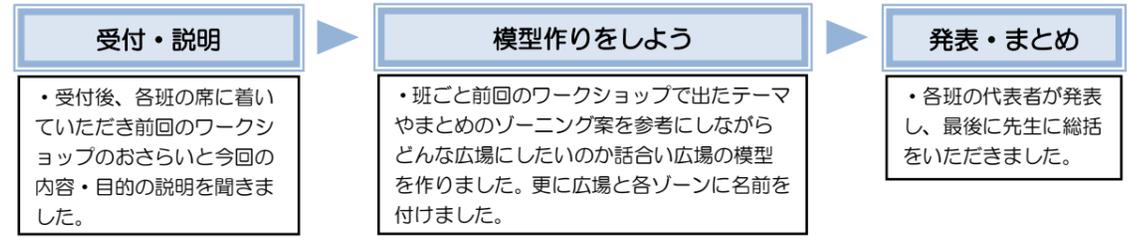
参加団体等：上矢切第一町会、上矢切第二町会、中矢切町会、下矢切第三町会、矢切地区子ども会連絡協議会、下矢切第一町会子ども会、下矢切第三町会子ども会、矢切土地改良区、NPO 法人やきり倶楽部、聖徳大学、松戸市（順不同）
以上の計29人の方々にご参加いただきました。

ワークショップの流れ



第4回ワークショップは2月25日（火）AM9：30から総合福祉会館で行います。

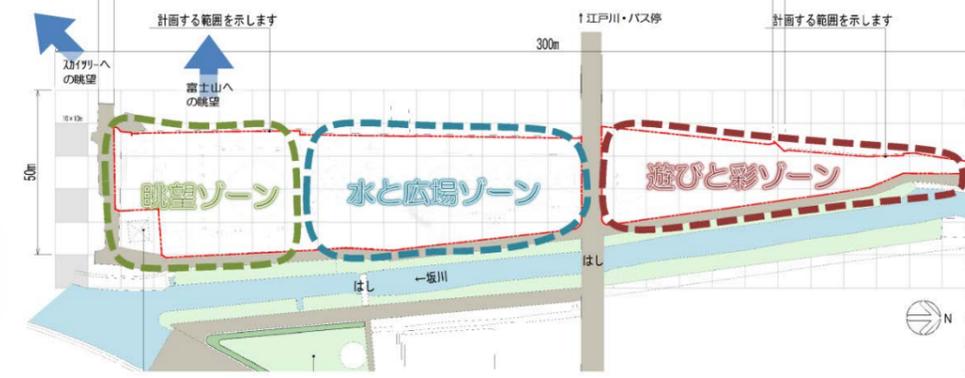
第3回目の内容



グループワーク 広場の模型を作ろう

より広場の中に入り込んだイメージをもって話し合いを行っていただきたいという考えのもと、今回のワークショップでは模型を使ってグループワークを行いました。

「第2回ワークショップのゾーニングのまとめ案」

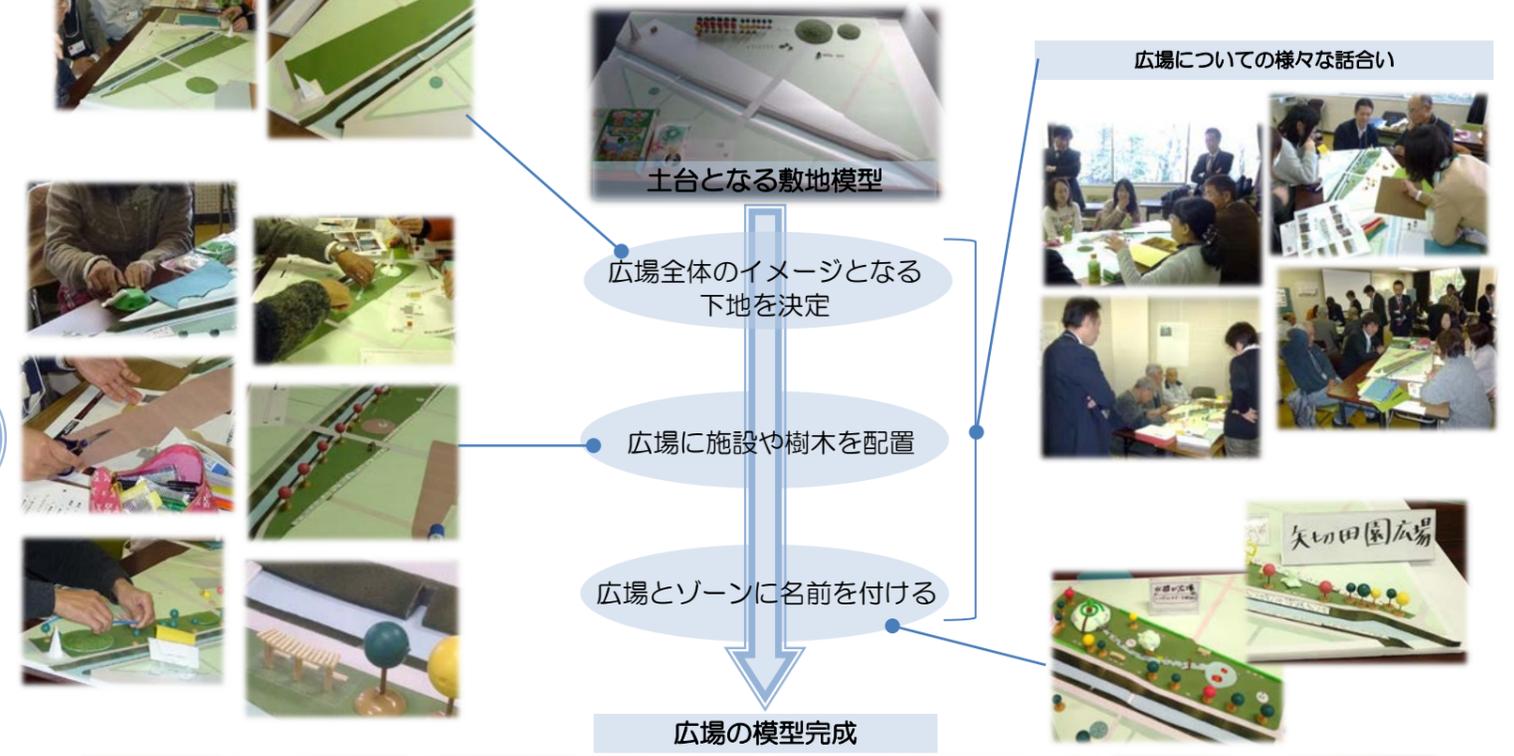


今回のワークショップでは左のゾーニング案を参考とし広場の施設配置を考えました。
「各ゾーンの説明」
・敷地南端部は2方向への眺望が確保できることから「眺望ゾーン」としました。
・広場の中心部は多くの班が水遊びとくつろぎ、イベントの空間としていたことから「水と広場ゾーン」としました。
・道路を挟んだ北側の広場については、健康器具としても使える遊具や花壇の配置という意見を踏まえ「遊びと彩ゾーン」としました。

「使用アイテム」



「広場の模型ができるまで」



「各班の作業風景」



A 班



B 班



C 班



D 班

班ごとに前回のワークショップを思い返しながら話し合い、用意されたアイテムだけでなく紙粘土やモールなど様々な材料を使い広場の模型づくりを行いました。

各班の広場模型と発表内容



A 班

広場のテーマ：「矢切親水公園」

- 広場の構成は北側の小さな敷地を「元気だゾーン」南側の大きな敷地を「シンボルツリーと眺める水遊び広場」とした。
- 元気だゾーンには主に健康器具や遊具、花壇を配置。北側のスペースを花壇として活用し、南側を遊びと健康のための広場とした。
- 敷地の中央にはシンボルツリー、南端部には眺望のための築山と休憩場所となるあすまや、そして敷地全体を繋ぐ形で小川をつくり終着点に池を配置した。小川や池の周りは全体的に芝生地とし所々にパーゴラやベンチなどの休憩施設を設置した。
- トイレについては築山に隠れない場所に移動した。



B 班

広場のテーマ：「すあしですごせる広場」

- 広場の構成は北側の小さな敷地を「素足で遊べるわんぱくゾーン」南側の大きな敷地を「素足でいこえるせせらぎゾーン」とした。
- 素足で遊べるわんぱくゾーンは遊具を置かずに子供たちが自由に考えて遊びを展開する場所としデッキと芝生の広場とした。
- 素足でいこえるせせらぎゾーンは南端部に配置した築山から敷地を縦断する形で蛇行した小川を配置した。築山の上には休憩場所となるあすまやを設置し、小川の周りは芝と自然石で構成することで、自然的な景観を演出しつつ子供たちが素足で遊びやすい場所にした。
- トイレについては築山に隠れない場所に移動した。



C 班

広場のテーマ：「ぞうあし広場」

- 広場の構成は北側の小さな敷地を「健康ゾーン」南側の大きな敷地を「展望ゾーン」とした。
- 健康ゾーンは健康器具や遊具、花壇を配置。北端部の広場利用が難しい場所は花壇を設置し、南側はお年寄りや子供が触れ合えるような場所として健康器具や遊具の広場とした。
- 展望ゾーンは子供がメインで遊ぶ場所とし、南端部に築山を配置。築山の高さを活かして滑り台をつくった。水については水たまりのような水深の浅い池と流れをつくり、周辺に休憩場所となるベンチやパーゴラを配置した。
- トイレについては敷地の中心付近に移動し両方の広場から利用しやすくした。



D 班

広場のテーマ：「矢切田園広場」

- 広場の構成は北側の小さな敷地を「遊具広場」南側の大きな敷地は南側から「ターザン山」「イベント広場」「噴水広場」とした。
- 遊具広場はシンボルとなるような遊具、バスケットゴール、健康器具を配置。
- ターザン山(築山)はスカイツリーと富士山への眺望が確保できる敷地の南端部に配置し、山の上から下へ滑走できる遊具を設置。
- イベント広場は花見など様々なイベントの開催場所として使うほか、平常時は子供たちの自由な遊び場とする。また、広場周りには日陰となるあすまやを設置した。
- 噴水広場は水浴びする人がいないように舗装から水が吹き上がるタイプの噴水とした。

大成先生のまとめ

まず、絶対的な条件としてこの場所(周辺景観)にあった広場である必要があると思います。また、坂川の隣りにあるという事も大きな特徴です。そして、それら踏まえてここに人々が集まりたいと思える魅力のある広場とすることが重要です。今回のワークショップではどのグループにも、広場のここが魅力になるというキーワードが存在したと思います。また、色々な世代の人が関わられるようにという配慮も見られました。その他にも年間を通して楽しめる工夫がどの案にもあったと思います。

今後プランを一つにまとめていく中で今回出てきた様々な意見とこの場所との必然性などを踏まえて検討していきたいと考えています。